

## 〈2〉 イラン：新大統領就任後も続く制裁下の内政・外交

中東エネルギー問題専門家 中嶋 猪久生

### まえがき

イラン・イスラム共和区（以下「イラン」）の新大統領マスード・ペゼシュキアン大統領（以下敬称略）就任初日の7月31日は、波乱に満ちた朝から始まった。ハマスの指導者イスマイル・ハニヤ政治局長が殺害されたという衝撃的なニュースで目覚め、このパレスチナ人指導者を悼むことから公務が始まった。その後、2カ月もたたないうちに、今度はヒズボラの指導者ハサン・ナスララ師がイスラエル軍の攻撃で殺害されるという事態が起きた。ハマスやヒズボラなどの代理勢力を利用したイスラエルとの「影の戦争」からイラン vs. イスラエルとの「表の戦争」へと変貌しつつあるようだ。ペゼシュキアンにとって、これまでになく困難な舵取りが迫られている。

新大統領にとって一番の難題は国際社会、特に米国の制裁により苦境に直面するイラン経済の修復だ。1989年以来、最高指導者であるアヤトラ・アリ・ハメネイ師の世界観（イスラエルと米国に対するイデオロギー的敵意、西側諸国への深い不信感等）で知られ、過去20年間は「ルック・イースト（東に目を向けよ）」という主義を積極的に支持してきた。これは、従来の非同盟政策を終わらせ、国際舞台上で中国とロシアに傾倒することを意味する。

これに対して、唯一の改革派の候補として出馬したペゼシュキアンは、過去に改革路線を目指したハ

タミ元大統領及びロウハニ政権時代に核合意（以下、「JCPOA」）の成立に貢献した元外相、モハメド・ジャバド・ザリフの選挙応援を受けた。ペゼシュキアンはマニフェストで、自身の外交政策は「反西側でも反東側でもない」と宣言した。また、ロシアと中国を近づけるライシ前大統領の政策を批判し、「現在の経済危機を解決する唯一の方法は、核の対立を終わらせ、制裁を緩和するために西側諸国と交渉することだ」と主張した。

大統領の誕生とイラン指導層が求める「革新的な理想主義」を維持することが求められる中で、改革派といわれる実用主義を追求する新大統領の政権による危なっかしさが全面的に表れている。

今回の論考では、第一に、政権運営に関する基本的な考え方、イラン経済が抱える深刻な問題点、イランが直面する政治・社会問題の分析など、第二に、米国による対イラン制裁の現状、テヘランとモスクワの関係と今後の展望を分析することが目的である。

### 第一章 ペゼシュキアンの登場と選挙への勝利

#### 【1】なぜペゼシュキアンは当選できたか？

ペゼシュキアンが当選できた理由は二つあるようだ。

## ■ 保守強硬派支持層の分裂による票割れ

第一に、ハメネイ師にとってライシ大統領のヘリコプター墜落事故死は、ライシがハメネイ師の有力な後継者の一人と目されていただけに、大きな誤算であった。本来、2025年に大統領選挙を行い、ライシに第二次政権を運営させることがハメネイ師の考えであり、ライシの死が突然だったため、ハメネイ師の意中の大統領候補者が示されないまま、選挙に突入してしまった。おまけに革命防衛隊（以下「IRGC」）出身の保守強硬派陣営の支持者同士の一本化が図られないまま、分裂し、票割れが発生したのだ。

## ■ 強力な改革派支援層の応援とマイノリティ勢力の支援

第二に、ライシの死により、5年早く、ハタミ元大統領やロウハニ政権時代のザリフ元外相ら改革派の選挙応援を受けて、これまでイラン政治の世界では無名に近かったペゼシュキアンが政治の表舞台に登場した。彼はロウハニ政権時代の保健相ではあったが、大統領候補者としては知名度があったわけではなく、立候補しても6月28日の選挙で二番手以内に入るはずがないとの予想で、ハメネイ師は彼の立候補を承認したとされている。ところが、28日の開票で保守強硬派を抑えて一番手に登場したことで、潮目が変わった。決戦投票では、改革派勢力、特に、社会改革を期待する無党派層や若年層の取り込みで成功し、勝利した。また、アゼルバイジャン人の父親とクルド人の母親を持つペゼシュキアンにとって、イラン南東部に多いマイノリティの票が集まったことも影響した。ペゼシュキアンはワイルド・カード候補として出馬し、予想に反して強硬派のライバルであるサイド・ジャリリを破って大統領選に勝利した、ということになる。これを米国のMLBワールド・シリーズに例えれば、ナショナル・リーグ西地区の2位のパドレスがワイルド・カードで勝ち上がり、同地区優勝の本命視されているドジャースに勝利し、西地区のチャンピオンになったようなものだ。

## ■ ハメネイ師の反応

ハメネイ師は7月、ペゼシュキアン勝利が確定した後、退任するライシ政権の閣僚との会談で、故ラ

イシ大統領を惜しみなく称賛し、「彼はすべての政府関係者にとって、模範的な経営の手本だった」と述べ、後任の大統領もライシ路線を引き継ぐべしとの暗黙の圧力をかけた。これを受けて、ペゼシュキアンはハメネイ師への絶対的な忠誠心を再確認し、ハメネイ師をイラン新政権が従う「導きの光」と呼んだ。

## 第二章 暗い経済の現状と未来

ライシ政権時のイラン経済は、今にも崩壊の危機に瀕しているようにみえた。アヤトラが権力を握って以来45年の間に、かつて誇り高かったこの国は破綻状態に陥ったというのが厳しい現実だ。イランを一つの銀行に例えて、民間のリスク管理債権の分類基準を適用すれば、二番目に重い基準である「破綻懸念先」ということになるだろうか。そしてこのまま手を打たなければ、イラン銀行は最悪の分類基準である「破綻先」へと転落することになる。インフレ率は40~50%近くに達することが多く、イランの石油を大量に割引価格で購入している中国からの経済支援がなければ、この国は破産に直面していた可能性が高い。このような現状からイラン経済の現状分析と問題点を指摘してみたい。ここで問題のある深刻な経済6分野は、①ガス、②原油輸出、自動車産業、④国家開発基金（NDF）、⑤補助金-1: ガソリン、⑥補助金-2: 小麦、パン。

### 【1】 ガス部門

#### ■ イランのガス生産

イランの23のガス精製所は日量約8.5億立法メートルを生産。毎年、夏と冬にガス不足に悩まされており、ガス発電所を含む産業施設へは、汚染度の高いことで悪名高い低品質の重油が供給されている。

#### ■ 見せかけのエネルギー外交：ガスは豊富だが、燃料に飢えている国

2000年以降、イランのガス供給量は295%増加している。さらに、今後消費が増加すると予想され、また、新規ガス田において随伴ガス回収設備が設置されていないことによるフレアリング（燃焼）が増

加している。この傾向が続くと、イランは今後数年で慢性的なガス不足に直面し、豊富な埋蔵量にも関わらず、輸入への依存がさらに高まる可能性がある。ロシア産天然ガスの輸入協定を「経済・産業革命」とオウジ前石油相は発言し、「ライシ政権のエネルギー外交の傑作」と称賛する。

#### ■ イランが直面するガス関連の課題とは？

現実には、イランは近隣諸国と共有する 28 の油田とガス田で大きな課題を抱えている。投資不足のため、生産量ではイラク、カタール、サウジアラビア等の近隣諸国に常に遅れをとってきた。これらの国々は国際企業、特に、西側企業の支援を受けて、開発・採掘活動を強化している。一方、イランは上流プロジェクトへの投資が急減している。

石油省は石油収入のわずか 14.5% を投資に振向けており、2023 年は 50 億ドル強にとどまった。議会研究センターの統計によれば、イランの石油、ガス上流プロジェクトへの年間投資額は、1990 年代、約 180 億ドル。2000 年代には国内技術に頼り、一部の油田に随伴ガス回収設備を設置したが、2010 年代初頭には油田への投資が約 70 億ドルと大幅に減少するとともに、随伴ガス回収プロジェクトの優先順位は下がった。2017 年以降は 30 億ドルに減少した。国際社会からの制裁により、外国の投資の誘致状況はさらに悪化している。資金を借りる能力が損なわれ、状況は益々悪化している。

#### ■ ガスのフレアリング（燃焼）の増加

ガス・エネルギー不足の中で、ガス・フレアリング（燃焼）が過去最大に増加。2023 年には 204 億フレアリングが増加し、立法メートル単位で前年比 19% の増加で、2012 年以降記録された最高レベルに達した。

フレアリングが増加した原因は、ガス・インフラとその利用に対する投資不足。イランは、過去 20 年間、油田から随伴ガスを回収するために必要な設備の開発に失敗してきた。特に、イランで中国主導により新たに開発されたヤダバラ、アザデガン、アザール油田での国内企業が管理する油田によって生じたものだ。しかし、ガス回収技術を備えた古い油田とは異なり、新しい油田への投資が行われた形跡はない。

このフレアリングされたガスの年間価値は 50 億ドルを超えるという。同時に国内の天然ガス消費量が増加し、供給がひっ迫して産業の混乱を招いている。また、ガス消費に至る過程で大量のガス漏れが発生している。ガス漏れの大部分は、時代遅れの送配電網によるもので、イランでは生産、輸送、配送の各段階で生産されたガスの約 290 億立方メートル（送配電されるガス全体の 12%）が失われており、これは同国の家庭用ガス全体量に相当する。

#### ■ ロシア産ガスの輸入

ガス田開発投資（フレアリングを含む）や送配電網の改修の遅れと大量のガス消費によりイランは冬季に大幅なガス不足に直面しており、天然ガスの代わりに汚染物質を排出するガスやディーゼルの消費が増加している。ここでライシ政権主導で、モスクワとテヘランの間で合意したのが、ロシア産ガスの輸入である。合意内容は以下の通りである。

計画輸入量： 日量 3 億立法メートル（イランの 1 日当たりの生産量の 1/3 以上に相当）

パイプライン： ロシアは海底パイプラインの技術を活用して、必要なパイプライン・インフラの建設費用を負担する。

#### 【2】 原油輸出： 原油輸出は 2024 年に 5 年ぶりの高水準

イランの原油とコンデンセートの輸出量は、2024 年 1~5 カ月で、日量 170 万バレルまで急増し、2019 年 5 月に米国が全面的な制裁を科して以来、5 年ぶりの高水準に達した。イラン税関統計によると、現会計年度の 3 カ月（3~5 月）間の石油収入は前年比 34.8% 増の 120 億ドルに達した。輸出量と国際石油市場の価格上昇を考慮すると、145 億ドルを超えるはずであった。20% の不足（145 億ドル - 120 億ドル = 25 億ドル）は、米国の制裁リスクを負う買い手（中国など）を確保するために、販売価格を割り引きしていることを示している。中国の小規模の製油所（ティーポット）はイランの違法な原油輸送分の買い手であり、仲介人が他国からの原油と混ぜて、シンガポールやマレーシアなどからの輸入品として中国の大連や寧波で荷下ろししている。